

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	放課後等デイサービス あらかると		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 16日	～	令和8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 9
○従業員評価実施期間	令和8年 1月 16日	～	令和8年 2月 6日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児ひとりひとりの障がい特性にあわせた発達支援 ・スペースの広さを生かした環境設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立課題については、個々の発達に合わせた課題を提供し、毎日行っています。 ・適切な環境設定を心がけ、落ち着いて過ごせる環境を提供しています。 ・日々の取り組みをサービス提供後に振り返り翌日の支援につながるよう意識しています。 ・外部の専門家を招き、支援課題や支援方法について第三者的観点から助言を得ています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を通じて職員のスキルアップに取り組みます。 ・固定化された活動と、こどもが自己決定できる、選択制の活動を組み合わせて取り組みます。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員、常勤職員を配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員配置することで、利用児の日々の変化を的確に把握するよう努めています。 ・経験豊富な職員を配置することで的確な助言が迅速に行える体制を整えています(職員の80パーセントが経験15年以上、60パーセントは経験20年以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員の採用を継続し、「日々、職員の顔ぶれが違うため支援・指導方針の一貫性が保ちにくい」体制は回避します。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・未就学児から成人まで、ライフステージに応じた連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人にて成人の入所施設、通所施設、グループホーム、相談支援事業を運営しているため、こどもの将来像についても保護者と話し合うよう努めています。 ・児童発達支援センター特別支援学校が隣接しているため、未就学から就学時まで各種機関と連携、情報の共有化を意識しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き関係各機関との連携を強め、こどもの発達支援を提供します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の他の子どもとの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・重度でコミュニケーションに課題を持つ利用児が多いため事故発生の恐れがあるため ・マンツーマンで職員を配置できないため事故発生の恐れがあるため ・利用児、保護者ともに、ニーズとして顕在化していないため 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回以上、懸念にしている放課後等デイサービスとの交流は企画します。 ・職員の質を向上させ利用児の発達を促し、事故発生確率の減少を図ります。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会やきょうだい向けのイベントの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年1回保護者への活動報告会は開催していますが、参加率は30パーセント前後です。 ・きょうだい向けイベントは開催していません ・全利用児が同じ学校のため、保護者交流は学校のPTA等で開わり、放デイにまでは求めない保護者もいます 	<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい向けイベントはニーズがあれば検討します。 ・今年も年1回の活動報告会は開催します。
3			